

## 山根 繁先生への敬愛

学部長・研究科長  
今井 裕之

山根 繁先生は、2002年に関西大学外国語教育研究機構に教授として着任され、22年間の長きに渡り、多面的で多大なご貢献をいただきました。研究面では、音声学、音声指導の心理言語学研究分野の中心的存在としてご活躍されました。特に外国語教育メディア学会では学会賞を受賞されるとともに、理事をはじめ要職をお務めになっています。学部・研究科での教育においては、博士号取得者をはじめ、多くの修了生、卒業生が山根ゼミから羽ばたいて行きました。そして副学部長や大学評議員として学部・大学運営においても大変ご尽力されたことは私たち皆が知るところです。そして本年2024年3月31日をもってご退職になられます。山根 繁先生がご退職の日を迎えることに強い寂寥の念を禁じ得ません。同時にそれ以上の深い感謝の念を先生に届けたく思います。

学生も事務職員も、私たち同僚教員も、誰もが山根先生を敬愛しています。それは例えば、山根先生の講義の履修者数、専門・卒業演習を志望する学生数にも現れています。講義の履修者がとても多いのは、学術的な卓越と授業者としての信頼の証左です。山根先生の専門演習を第一希望とする学部生たちは、毎年定員超過で学務担当の私はいつも学生に申し訳ない思いでした。皆さん各々に山根先生のお人柄に触れ、敬愛するようになったエピソードがあると思います。私の個人的な思い出で恐縮ですが、山根先生との関西大学での初めての出会いは、私の採用面接の時でした。質疑の際、主査の吉田先生に「苦手な委員仕事はありますか？」と尋ねられ、「経験上、教務委員は苦手です」と素直に答えて空気が緊迫した時に、山根先生が「私も同じ年頃に関大に来てすぐ学務委員を務めました、大丈夫ですよ」と穏やかな笑顔で場を救ってくださいました。いつも沈着冷静、穏やかな所作で場を導いてくださる山根先生は、私たちの目標です。

最終講義の際に、あらためて山根 繁先生の研究・教育業績の素晴らしさに触れるとともに、深く感銘を覚えた2つのことがあります。ひとつは、ABC放送局のニュースを用いた大学用テキストを1987年以来現在に至るまで35年以上継続されていることによる、大学英語教育への貢献の偉大さを改めて感じたことです。「継続は力なり」とは言いますが、早くても始まりが20代後半の大学教員の教育キャリアは長くて40年程度だと思えば、35年を超える継続性を金字塔と呼ばずしてなんと呼ぶのかと思われました。もう一つは、ご自身のご研究成果を語る

際に、関わった共同研究者の皆さんや、後進の指導学生たちの研究成果を踏まえて、研究の広がりや将来への展望を語られた、研究者としての包容力です。周囲の研究者と協働し、後進に引き継ぎながら、研究発展を続けた先生のキャリアから、私たちは、あるべき研究姿勢を学ばせていただきました。研究、教育、学部運営すべてに盤石だった山根 繁先生が外国語学部で築いてくださった堅固で大きな土台を、これからも引き継いでいきたいという思いを新たにしていきます。山根先生、ありがとうございました。